

世界の難民情報を伝える

UNHCR NEWS

United Nations High Commissioner for Refugees

Number

8

SEPTEMBER 1998



Contents

Special Report

化学兵器の後遺症に苦しむ続ける人々
イランのクルド難民キャンプを訪れて
イランの難民状況

Update

世界各地の難民状況

Campaign Report/Information

「バレーボール世界選手権で、難民の子どもたちに応援を！」
「ホームページに新登場」
「新しい日本語版ビデオが完成」



UNHCR

国連難民高等弁務官 日本・韓国地域事務所

SPECIAL
REPORT

寄稿

化学兵器の後遺症に 苦しみ続ける人々

イランの クルド難民キャンプを 訪れて

大淵 喜隆 フォトジャーナリスト

民族が国家を持たないとき、そしてその地域が石油地帯と重複し複雑に交錯する地政の歴史を持つとき、その民族は、悲劇でしか世界から脚光を浴びることができないのであろうか。パレスチナではない、クルドである。

化学兵器などの疑惑をめぐり、イラクは常に注目を集める。しかし、毒ガスの存在を白日のもとにさらした「ハラブジャの悲劇」も、直接的な被害者であるクルド人も、そして、湾岸戦争時に制裁という“^{シハード}聖戦”の影で発生した大量難民も、もはや過去の歴史となってしまったのか。

98年6月、曾野綾子さん(日本財団会長)と共に、イランのクルド人難民キャンプを取材した。

クルドの悲劇

1988年3月、「ハラブジャの悲劇」は起きた。

「空軍が、とても近くで攻撃しました。家の近くで2か所が破壊され、2日後に難民になりました。他の家族と約20人がまとまって車で越境したんです。村では多くの人が死にました。何人かは、キャンプに着いてから死にました。」

その日の模様を話すハラブジャ出身のタハミ・ルマンさん(50歳)の目は赤く充血していた。「悲鳴と吐き気と恐怖と、あの日の暗い空は忘れられない」とも語った。

イラン・イラク戦争(1980年9月～88年8月)の末期に、イラクからの独立を求めたクルド人の反乱に対し、イラク軍は、自国領内のクルド自治区にあったハラブジャの町を化学兵器によって攻撃し、5000人ともいわれる人々の命を奪った。毒ガス爆弾による悲劇は、1991年の湾岸戦争でも繰り返され、クルドはイラン国境を越え、再び大量の難民を生んだ。

しかし、クルド民族の悲劇は、すでに今世紀初頭に始まっていた。メソポタミア北部からザグロス山脈にかけて広がるクルディスタン地方に、列強の思惑によって国境線がひかれ、そこに暮らしていたクルド人は、トルコ、イラン、イラクなどの国々に分割された。そして、総人口2000万とも3000万人とも推定される、ペルシャでもアラブでもない、独自の言語を持つ、世界最大の“国家なき民”が生まれた。

現在、イラク北部のクルド自治区は、米国を中心とする連合国の監視下に置かれ、バクダット政府からの直接的脅威は免れている。が、長年の民族運動はクルドの政治・軍事勢力の内部分裂をまねき、イラクからの独立は絶望的とまでいわれるほどの悲劇を生みだしている。敷設された無数の対人地雷は、今も放置されたままだという。

ハラブジャの遺産

化学兵器の後遺症と祖国の恐怖

イラクとの国境に近いケルマンシャ市近郊にあるソンゴル難民キャンプには、約1600名のクルド難民が、ひっそりと暮らしていた。すでに、開設から7年が過ぎた収容施設には、騒然とした雰囲気はない。警備に当たるイラン軍兵士の姿には、「隔離」という物ものしさを感ずるが、キャンプ内には、電気、水道が敷設され、モスク、集会所、学校などの公共施設も建てられている。広場で遊ぶ子どもたちや、木陰で立ち話をする女性の姿からは、安定した様子が伝わってくる。

しかし、その落ち着きとは逆に、悲劇は現在でもつづいていた。化学兵器による後遺症だ。冒頭のタハミさんもその一人、毒ガスの影響なのか、半年前にご主人を亡くされ、自身も3年前より下半身が麻痺してしまった。

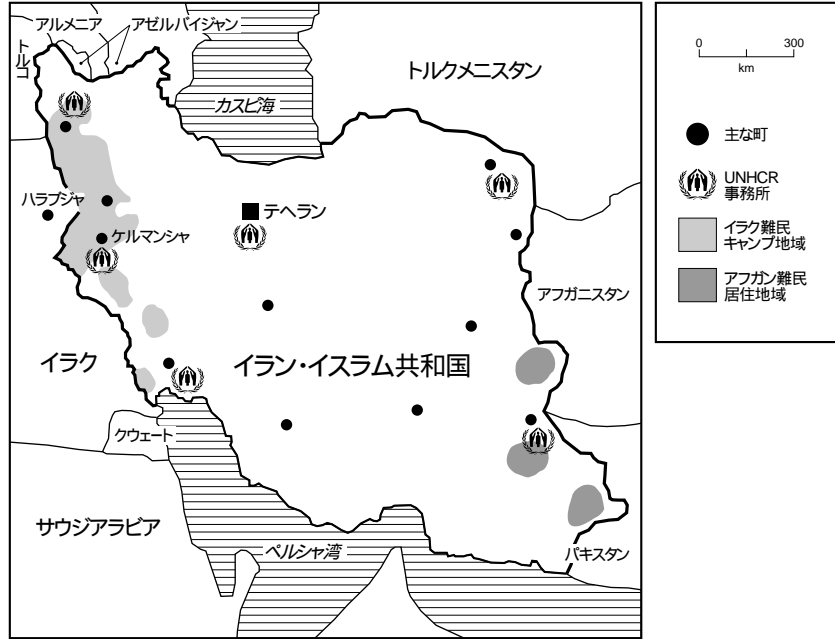
もう一つのクルド人難民キャンプ、セフィルド・チョガ(約1500名収容)でも、多くの人々が身体の不調を訴えた。その中には、白内障の少女の姿もあった。

UNHCRの医師は、科学的に実証はされていないとしながらも、「クルド難民は、白血病や癌の発生率が高い。白内障や肺腫瘍も多い。これは化学兵器による後遺症だと推測されている」と、指摘する。また、冬は雪に覆われ夏には40度を超える気候条件と、硬質の井戸水や粉塵が舞う生活環境から、肺炎や腎臓結石の患者も少なくない。

健康だけでなく、祖国に対する恐怖を訴える人も多かった。

キルクーク出身のムハマド・シュクムさんは、91年(湾岸戦争でのイラク軍のクルド自治区への攻撃)の空爆で村を壊された。

「息を潜めるように暮らしていましたが、3年前にこのキャンプにきました。サダム・フセインからの攻撃を



MRU医師の診断を受けるクルドの少女に話しかける曾野・日本財団会長
©Y.OFUCHI

逃れるためです。子どもを傭兵にしようとしたので越境しました。」

死亡した息子の写真を持ちながら、キャンプの暮らしぶりを説明するイスマさんは、「外出の規制、ペルシャ語による初等教育、限られた配給の食料や医薬品、中でも、収入がないことが一番辛い」と言う。

それでも難民たちは、口をそろえるように語っていた。「今は、恐くて帰れない」と。

各家庭の部屋の壁に貼られた、故ホメイニ氏とハメネイ最高指導者のポスターが、難民という立場を象徴していた。

願いは難民の自立

イランは、世界最大の難民受け入れ国である。その数は、アフガニスタン、イラク・クルド及びシリア派難民を合わせ、およそ200万人と推定されている。また、32か所の難民キャンプには、社会・経済的に最も保護を必要としている8万人余りの難民が暮らしている(うち、クルド難民は約2万人)。

しかし、ホメイニ革命以来、イラン・イラク戦争、米国による経済制裁、石油の価格低迷と、経済的疲弊に苦しむイランにとって、大量の難民受け入れによる負担は少なくない。

難民を所管するイラン内務省在留外国人移民局長のハッサン・アリさんは、「イスラムの教えとして、人類は一つの身体のようにつながっている。苦しむ同胞を救うことは当たり前。難民には未来を与えたい」としながらも、インフラ、教育、保健・医療、治安維持等にかかわる経費ばかりでなく、雇用面でも、イラン人の就労機会を奪う現状を指摘した。

日本財団は、UNHCRに対し、97年から2年続けて各100万ドルの資金拠出を行なった。それは、経済制裁下のイランに暮らすイラク難民とアフガン難民の保健・医療プロジェクトに使われている。イランでは、近年の物価上昇に伴い医療費も高騰している。収入の限られた難民にとって、それは大きな負担となるが、予算が制限される国際機関にとっても同様の問題を抱えることになる。

UNHCRイラン事務所では、貴重な資金をより有効な医療サービスに当てるため、MRU(Medical Referral Unit)と呼ばれる医療相談制度を創設した。それは、難民の病状を診察し、優先順位を決め、病院を紹介し、治療費を支給するという一連の診療システムである。現在、6か所のMRUが開設されている。

各診療相談所には、朝から長蛇の列ができる。前述の医師は、「資金難から、患者を選別しなくてはならないことが辛い。障害があっても、緊急度の低い患者は後回しにせざるを得ない」と、苦しい選択を語っていた。

曾野綾子さんは、今回のクルド難民キャンプ視察の感想を次のように述べている。

「クルド人の難民キャンプでは、化学兵器の後遺症をはじめとする医療問題の深刻さと、困難な状況にありながらも自尊心を失わない難民の姿に、将来への希望を感じました。

私たちがするべき援助は、冷たく聞こえるかもしれませんが、“難民業”を廃業させることだと思います。

彼らに、人間としての誇りを与え、自立の精神を持たせることが、一番大切です。」

取材中、「独立」を口にする難民とは、ついに会わなかった。彼らの望みは、クルド国家建国でもなければ、世界から脚光を浴びることもない。

白内障の少女が「お医者さんになりたい」と将来の夢を話してくれた。足

の不自由なタハミさんは、「その時が来れば、はってでも行く」と語った。クルド人難民キャンプには、化学兵器の後遺症に苦しみながらも、祖国への帰還を夢見る人々が、ひっそりと暮らしていた。

依然、イラク政情は安定しない。97年に、クルド人難民の帰還者は、4341名にとどまった。クルド難民は、決して過去の歴史ではない。



UNHCRテヘラン事務所MRUの診断を待つアフガン難民
©Y.OFUCHI

イランの難民状況

イランは、世界最大の難民受け入れ国であり、200万人以上を受け入れている。イラン政府によると、アフガン難民140万人とイラク難民58万人が国内にとどまり、他にも合計で4万人(タジク人、ボスニア人、アゼリ人、エリトリア人、ソマリア人など)の難民がいる。

これらの難民のうち、イラン政府が運営するキャンプで居住しているのは、アフガン難民2万1700人とイラク難民6万4300人のみ。それ以外の大半の難民は国内各地に散らばり、主に都市部で、政府や国際機関の援助に頼らず暮らしている。

しかし94年～95年に国内の景気後退で、難民の雇用が減り、医療・教育補助金も減額されたので、UNHCRはこの分野での援助を拡大している。

92年以降、アフガン難民130万人が帰還したが、そのうち56万6000人は

UNHCRの支援を受けた。アフガニスタンの比較的安定した地域への帰還は97年も続いた。

イラクからの難民は、主にイラク北部出身のクルド人と、南部出身のイスラム教シーア派の人々。クルド人は20年以上前からイランに庇護を求めて逃れているが、1991年の湾岸戦争の際には、100万人以上がイラク政府軍をおそれてイランに逃れた。大部分は戦争後に帰還したが、今でも2万8000人が16か所の収容所やキャンプで暮らしている。一方、湾岸戦争時に逃れてきたシーア派の人々6万人のうち、3万6488人が今も収容所やキャンプで暮らしている。

イランにおけるUNHCRの援助策は、女性を対象とした自活支援プロジェクト、識字教育、家族計画を含めた保健・衛生教育などが中心。さらに子どもの健全な発育と教育にも力を入れている。

Update

世界各地の 難民状況

詳細はインターネットの
ホームページ(英語版)をご覧ください

<http://www.unhcr.or.jp>

緒方高等弁務官、 シエラレオネ難民 15万人への 即時アクセスを求める

緒方貞子国連難民高等弁務官は7月3日、シエラレオネ難民15万人以上を収容しているキャンプにただちにアクセスできるよう、ギニア政府に要請した。これら難民への人道援助は3週間近くも絶たれたままになっている。

ギニアのコンテ大統領に宛てた書簡で緒方高等弁務官は、シエラレオネ国境近くに置かれたキャンプに通じる道路の封鎖解除を当局に要請した。UNHCRなどの援助機関が、極度に不足している食糧、水、医薬品を輸送できるようにするための。

ギニアの町ギケドゥ南西のシエラレオネ国境地帯では、6月15日以来、援助物資の輸送が阻止されている。地元当局は、アクセスを認めない理由として治安の悪化を挙げている。

6月22日になってUNHCR職員は国境地帯数か所への立ち入りを認められたが、ノンゴアのキャンプには誰もいなかった。ここは数日前、5000人以上の新到着難民が収容されたキャンプだ。西アフリカ平和維持軍(ECOMOG)と、元政府軍に味方する反政府ゲリラとの間の戦闘を避けて難民が逃げ出したのは明らかだ。

UNHCR、世界食糧計画(WFP)、NGOは、難民の栄養および健康状態を安定させようと全力を尽くしている。特に子どもの栄養失調と高い死亡率は、援助中断の前にすでに深刻な問題となっていた。

過去数週間のうちにギニアに逃れた人々の多くは、援助活動が途絶えたために、食糧配給を1度も受けていない。トイレ建設や給水作業も中断され、伝染病のまん延が各地で心配されている。(98年7月3日現在)

UNHCRとWFP、 アフガニスタンにおける 援助職員殺害を非難

緒方貞子国連難民高等弁務官とキャサリン・バーティニ世界食糧計画(WFP)事務局長は7月20日、アフガニスタンにおけるアフガン人援助職員2人の殺害を非難した。

犠牲となったのは、UNHCRとWFPの職員としてジャララバードで働いていたモハメド・ナジール・ハビビ氏(49歳)とモハマド・ハシム・バサヤール氏(55歳)。ふたりは7月13日、出勤途上、ジャララバード大学の前で国連の車を待っているところを誘拐された。どちらも以前はジャララバード大学の教授だった。

誘拐後、UNHCRとWFPはただちにイスラム原理主義勢力タリバンの地元知事と連絡をとり、ふたりの居場所をつきとめようとした。WFP職員のバサヤール氏の遺体は7月18日にジャララバード郊外で発見された。一方、UNHCR職員のハビビ氏の遺体は翌19日、パキスタン国境近くのトルハムで見つかった。

ハビビ氏は、ジャララバード地域における帰還民の再定着を目的としたUNHCR計画の実行責任者のひとりだった。1998年にパキスタンから帰還した難民7万人の大部分が、この地域に定住している。またバサヤール氏は、WFPジャララバード事務所の事務官だった。

「世界の一部の地域では、人道機関で働く現地職員が極度の危険にさらされている。この悲劇的な事件によって、その事実がまたも明らかとなった」と緒方高等弁務官。「私は

UNHCRを代表して殺害事件への憤りを表明するとともに、両名のご遺族の方々に心からお悔やみ申し上げたい。」(98年7月20日現在)

高等弁務官、 タジキスタンにおける 国連要員4人の殺害を 強く非難

緒方貞子国連難民高等弁務官は7月22日、国連タジキスタン監視団メンバー4人の襲撃殺害事件に対する憤りを表明した。

「平和と人道の仕事に生命を捧げていた人々がまたも犠牲となり、大きな衝撃を受けている。このような卑劣な襲撃は直ちに止めさせねばならない」と緒方高等弁務官は述べた。

高等弁務官はまた、犠牲者たちの遺族に哀悼の意を表して次のように述べた。「犠牲者のひとりが私の親しい友人で、優れた学者である日本人の秋野豊氏であると知り、強いショックを受けた。同氏の死を心から悲しむとともに、痛みをご家族と分かち合いたい。」

4人の内訳は国連の秋野政務官、軍事監視要員2人(ポーランドとウルグアイ出身)と一行のタジク人通訳1人。この8か月前にも、フランス人援助職員が誘拐された。

「今回の殺害事件で、タジキスタンの復興という私たちの任務は明らかに困難に陥る」と高等弁務官は述べた。1992年に内戦が起こり、多くのタジク難民が国外に逃れたが、UNHCRはその帰還に関わってきた。UNHCRの支援により1993年以降、5万3000人がアフガニスタンとトルクメニスタンから帰還している。

UNHCRは、タジキスタンで住宅の建設や、学校・診療所の再建を通じて帰還民の地域社会への定着を支援している。(98年7月22日現在)

Campaign Report/Information

バレーボール世界選手権で、 難民の子どもたちに応援を!

今秋11月3日～29日、日本で「1998バレーボール世界選手権」が開催され、全国各地で熱い激戦が繰り広げられる。

バレーボール界の頂点に位置する「世界選手権」。それは、サッカーの「ワールドカップ」、陸上の「世界陸上」に匹敵する権威と伝統に彩られた世界大会だ。

しかも、今回の「決戦」は、実に世界217の国・地域から予選を勝ち抜いた男子24か国、女子16か国が参加する、24年ぶりの「男女同一開催」大会になる。

国際バレーボール連盟の協力

これを主催する「国際バレーボール連盟」(FIVB)と共催の「財日本バレーボール協会」(村井 勉 会長)は、UNHCRと協力して、難民の青少年の支援をすることになった。

国際バレーボール連盟(ルーベン・アコスタ・ヘルナンデス会長)と世界各国のバレーボール協会は1997年から、コートジボワール、メキシコ、ルワンダ、旧ユーゴスラビアなどで、難民の子どもや青年に、バレーボールの用具(ボールやネット、Tシャツ)を寄贈したり、トレーニングを行なっている。

難民の子にバレーボールを

世界中でUNHCRが援助している2200万人の難民や避難民のうち、半数以上は子どもたち。そして、その多くが、暴力の犠牲となり、家族や故郷との絆を断ち切れ、心に傷を負っている。こうした難民の青少年にとって、スポーツを楽しむ機会はとても貴重な。心の傷を癒し、さら



に引き裂かれた社会を再建する大切な一歩となるからだ。

また、異なる民族の子どもたちと一緒にスポーツに汗を流す経験を通して、平和を愛する心や、文化の違いに対する理解を育むことができるだろう。

ぜひ、試合の観戦を!

国際バレーボール連盟は、昨年5～6月にも、世界12か国で開催された「ワールドリーグ」の中で、難民支援の広報活動と資金集めに大きな協力をしている。難民支援のTVスポットも開催国の推定2500万人の視聴者を対象に放送され、日本でも日本バレーボール協会とNHKの協力で、試合放送の合間に、このスポットが放映された。

今回の「1998バレーボール世界選手権」の試合開催15都市・17会場は右記のとおり(共催:TBS東京放送)。これらの試合に参加して、UNHCRとバレーボール連盟による世界中の難民の青少年への支援を応援してください。

いくつかの開催地では、会場で募

金を集めますが、同封の振り替え用紙(「難民の子にバレーボールを」と明記下さい)でも、ご寄付を受け付けますので、ご協力よろしくお願いします。

開催期間

女子: 1998年11月3日(火) 12日(木)
7都市50試合
男子: 1998年11月13日(金) 29日(日)
11都市104試合

開催都市/会場

札幌 / 真駒内公園屋内競技場
仙台 / 仙台市体育館
魚津 / テクノスポーツドーム
松本 / 松本市総合体育館
千葉幕張 / 幕張メッセ
東京 / 東京体育館
国立代々木競技場第一体育館
川崎 / とどろきアリーナ
浜松 / 浜松アリーナ
名古屋 / 名古屋レインボーホール
大阪 / 大阪市中央体育館
なみはやホール
神戸 / グリーンアリーナ神戸
広島 / 広島グリーンアリーナ
徳山 / 徳山市総合スポーツセンター
福岡 / マリンメッセ福岡
鹿児島 / 鹿児島アリーナ

詳しい日時・会場は、大会事務局の次の連絡先までお問い合わせください。

Tel: 03-3505-7471

ホームページ

<http://www.tbs.co.jp/vball98/>

ホームページに新登場

このニュースレターと『難民』誌のバックナンバーが、UNHCRのインターネット・ホームページで見られるようになりました。

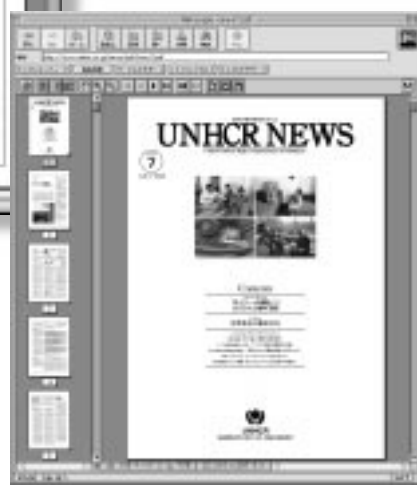
以前のように本文の記事だけではなく、写真や地図などの図版も含め、印刷物のデザイン・レイアウトのまま、ホームページ上で閲覧できるとともに、通常のゼロックス・コピーよりも鮮明なプリントもできます。

これは、「アクロバット」という、PDF(Portable Document Format)ファイルの画期的なソフトの登場と普及で可能となったものです(ただし現在、画面の表示の遅さが難)。閲覧のためには、専用の「アクロバットリーダー」が必要になりますが、インターネット上で無料ダウンロードできます。

ニュースレターは1号から7号まで、



『難民』誌 98年2号



ニュースレター 7号

『難民』誌は98年の1号から4号までが、すでに掲載されています。このほか、UNHCRの日本語ホームページでは、新しいプレスリリースなどが随時、更新されていますので、ぜひ、ご利用ください。

新しい日本語版ビデオが完成

UNHCR日本・韓国地域事務所では、ビデオ「世界の難民はどこに 1997-1998」(17分)の日本語版を作りました。

アフリカ中部のルワンダ難民やヨ

ーロッパのボスニア難民など、1997年に世界各地で起きた難民問題を中心に、UNHCRの活動と難民の人々の状況を、貴重な映像で詳しく描いています。

また、日本のガールスカウトがアフガン難民の子どもたちを対象に行

なった「ピースバック」プロジェクトの様子も取り上げられています。

一般貸し出しの受け付けとともに、学校関係や民間団体には、無料配布も行ないます。詳しくは、広報室まで。



ビデオ『世界の難民はどこに 1997-1998』の映像から

読む資料・見る資料

さしあげます

季刊誌

「難民 Refugees」—— 難民問題の現状と保護・援助のあり方をめぐる情報誌。特集には難民保護と国際社会の対応、人道援助活動をめぐる将来の展望など、各層の視点を紹介します。

パンフレット

1 難民女性とは—— 難民の8割をしめるのは女性と子ども。暴力の犠牲となりやすい女性たちの実態を取り上げます。
2 「リーフレット」—— UNHCRの活動や難民問題の解決方法などを、イラスト入りで簡単に紹介しています。

「わたしたちの難民問題」—— 大学生などUNHCRの若いボランティアが中心となって高校生向けにつくった入門書。（「僕たちの難民問題」改訂版）

「難民問題の手引き」—— 「難民問題の現状」「地域別にみる難民問題」「UNHCRの活動」などを教師向けにまとめました。サイズ変形A5版

「難民の子どもたち」—— どうして難民になったのか、逃げる途中でどのような経験をしたのか、キャンプではどんな生活を送っているか、そして将来の夢など、子どもたちの声が聞こえてきます。小学生から高校生向け（20頁）

1. **ポスター 2種類**—— 世界の難民の子どもが描いた絵画から、アフガン難民（12歳）とスーダン難民（17歳）の作品2点を選んでポスターにしました。
サイズA2（42×59cm）

2. **ポスターセット**—— 難民地図、UNHCRや難民などについての説明と写真で構成したセット。10枚一組。サイズA2（42×59cm）

UNHCR 早わかり

UNHCR 早わかり（最新版1997年11月発行）
UNHCRの概要

ニュースレター

UNHCR News（現在の難民の状況とUNHCRの援助活動）

募金箱

難民援助の募金にご協力ください。
ボール紙製 8.5×18×13cm
プラスチック製 8.5×18×13cm
プラスチック製は折りたたみ不可
詳しくはお問い合わせください。

お貸しします

展示用パネル—— 文字、写真パネル、世界難民地図を合わせ20枚が一組です。（68×47cm）貸し出し希望期間、使用目的、主催者をお知らせください。（ご要望が多いため、2か月前にはお申し込み下さい。）

ビデオテープ

1（日本語吹替え版・字幕版）
ほんのちょっと変えてみよう（14分）
2（日本語吹替え版）
世界の難民はどこに（95分） 難民女性（13分）
3（日本・韓国 地域事務所制作）
難民もみんなも同じ地球人（19分）中学生向き

UNHCR日本・韓国 地域事務所はホームページを開設しています。ぜひご活用ください。
<http://www.unhcr.or.jp>

お問い合わせ先

UNHCR日本・韓国 地域事務所
広報室

〒107-0052 東京都港区赤坂 8-4-14
TEL03-3475-4882
FAX03-3475-4884

資料や募金箱は、基本的に無料です。ただし送料と、資料枚数の多い場合はコピー代がかかります。広報室宛に、ご質問も含めて官製はがきでお申し込みください。できる限り着払い（宅急便または郵便小包）をお願いいたしますが、ご無理な場合、送料分の切手を、資料受け取り後、同封のアンケートと共に広報室宛てにご返送ください。

UNHCRニュース NO.8
1998年9月

発行
UNHCR日本・韓国 地域事務所
広報室
郵便振替
口座番号：00130-4-59734
加入者名：UNHCR

表紙写真 4点とも ©Y.OFUCHI
左上：クルド難民の子どもたち
右上：多くのクルド難民が身体の不調を訴えた
左下：ペルシャ語で書かれた UNHCR マーク
右下：開設から7年が過ぎたセフィルド・チョガ難民キャンプ